

第1回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 平成29年8月25日（金）

19時00分～22時00分

場所 氷上住民センター大会議室

出席者（敬称略・順不同）

○委員 北村久美子委員、丹生裕子委員、大野亮祐委員、山本寿朗委員、畑道雄委員、高見謙二委員、八尾由江委員、足立宣孝委員、大木玲子委員、足立浩委員、三井優生委員、酒井芳朗委員、山下淳委員、岡絵理子委員、足立昌彦委員、北山芳明委員、荻野祐一委員

※欠席：谷水ゆかり委員、前田文雄委員、大久保徹委員

○丹波市 鬼頭哲也副市長

（事務局）西山政策担当部長、近藤総合政策課長、荻野総合政策課政策係長、船越総合政策課政策係主査

1 開会

2 副市長あいさつ

3 委嘱書交付【資料1-3】

机上配布で交付を行った。

4 自己紹介【資料1-2】

5 事務局紹介

事務局員の紹介を行った。

6 会長・副会長の選出及びあいさつ【資料1-3】

会長 山下淳委員

副会長 大野亮祐委員

7 報告事項

※事務局より説明

- (1) 丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略推進委員会の評価検証について【資料1-1】
- (2) 人口ビジョンについて【資料2】

会長：報告について何か質問のある方はいらっしゃいますか。

質問無し

9 協議事項

※事務局より説明

- (1) 平成28年度事業効果検証について
 - ・丹(まごころ)の里創生総合戦略項目一覧【資料3】
 - ・丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略効果検証結果【資料4】
- (2) 質疑・意見

【認定新規就農者等支援事業】

委員：人・農地プランの作成推進が今後にも必要になってくるということで、市で支援員を配置し作成が行なわれている。市内で70集落程度プランの作成がされている。集落を今後どのようにしていくのか、担い手をどのように育成していくのか将来的なビジョンを作るといふことで、各集落で作成が進んできていることはよいことではあるが、プランの作成が目的となっており、作成して終わりということになってきている。プランを作成して、そのプランに基づいて進めていくことが大切で、2年後3年後どうなっているかなどの進捗管理やチェックが必要ではないかと思っている。

委員：市はプランを作るのがうまく認定農業者も篠山市の3倍認定がある。人・農地プランは次の世代は誰がその地域の農地を保全するのか決めないと国の制度を活用できないので作成しようということになっている。そのプランにあがっている地域の担い手が60代、70代となってもよいということに進んでいるが、そういうものでよいのかという疑問はある。ただ、そうしなければならぬほど担い手がいないというのが現状で、だれも担い手がいまいませんでは、プランは作成できない。上辺だけ整えても改善にはならないのかと思う。

会長：人・農地プランの作成が認定新規就農者の支援につながっているのかということが問題ではないかと思う。

委員：そのあたりは制度がからんでくるが、新規で担い手になられた場合、認定新規就農者支援が受けられる場合があるため、こういった方向性にはなってくると思う。

委員：集落営農でみんなで農業をやっていた時期があった。そのころはJAから営農指導員

や市の担当者が地域に入り座談会を開催し相談等に応じていた。そのころは、専業・兼業農家問わず、集落の人全てが担い手といった感じだったが現在は薄れてきている。市やJAはそういった機会を作る必要があるのではないかと感じている。

【丹波市創業支援計画（たんばチャレンジカフェの運営）】

委員：新規の起業者支援ということで相談窓口を開設して対応させていただいているわけですが、平成27、28年度とも成果数値が目標数値を下回っている。相談者については、平成26年度から287名ある。ただ、相談がすぐに起業へと結びついていないという課題もあるが、補助金があるから起業をすればよいといった進めかたではなくて、起業するからには継続して経営が成り立つように進めている。ちなみに、平成29年度については、現在のところ23件の起業となる見込みである。それについても27年28年から起業を考えておられた方に起業セミナーなどを設け徐々に自信をつけられ起業に結びついているものと思っている。

会長：少しずつ成果を上げてきている。起業というのは、2、3年かけて成果が出てくるといふもので、少しずつその成果が見えてきつつあるということではないでしょうか。

委員：何かをしたいといった漠然とした相談もあるが、それがヒアリングの中で徐々に具体的になってくることもある。また、専門家ではないことが気軽に相談できることにつながっている。

【雇用対策補助事業】

委員：昨年度、成果数値が下がってきている中で、事業を継続すべきかどうかといった議論になったが、数値としては下がってきてはいるが、企業の従業員の確保が大変厳しくなっており、積極的な訓練や研修に取り組めないといった現状がある。商工会では全会員に対して、巡回を行いニーズを聞き取り、集団開催できる場所はしており、そちらの利用人数は増えてきている。これについても、内容の精査を担当部と協議していきたいと思っている。

委員：企業はどこも雇用で苦労している。人がどうしてこれくらい足りないのかというくらい足りていない。雇用条件の高い次元のマッチングになればなるほど難しいのかなと感じている。どのような雇用形態でやっていくかも含めたマッチングも必要ではないかと思う。

【人材としごとのマッチングの推進】

委員：移住サイトへのアクセス数が多くなってきている。サイトへのアクセス数に比例したような移住の推進の仕方ができればと思っている。定住促進センターでは、サイトの更なる充実を図っている。

【基本目標1 全体】

会長：相談件数はKPIをクリアしているが、新規就農、起業、移住などに結びつくには、も

う少しハードルがあり、そこが問題ではないか。相談の体制は整ってきているが、それをうまく掴みきれていない。チャレンジカフェについては、相談から起業までの間をセミナー等で時間をかけつないでいって成果を上げつつあるということであれば、他の取組みにおいても相談と実際の行動をつなぐ工夫が必要である。

【丹波スターコンテンツ活用事業】

委員：昨年、丹波三宝について、もっと予算を計上し推進する必要があるのではないかと聞いた話がありましたが、現在、推進協議会も充実してきて参加会員もスイーツという枠の中で活動を行なっており、丹波市内でスイーツの製造・販売を行なっている事業者は、ほぼ全て加入いただいている。今後の展開については、スイーツに限らず、飲食店や生産者などを含めて取り組んでいきたいと思っており、丹波三宝を丹波市全体で推進していけるような内容にしていくことを目途にしている。

【大学と地域住民連携による空き家再生活用モデル事業】

委員：衣川會館の関係でボランティアの数はほとんどが関大生であると思うがそれでいいと思っている。こういう取組みがあちらこちらでおこればいいと思っている。こういう成果があがっているものは、みんな真似すればいいのにといい気持ちがあります。

委員：衣川會館については、たくさんの方が力を入れられており、商工会とも色々と連携をさせてもらっており、地域を含め一緒になって取組みを行なっており、地域が動きかけたと感じています。

【ツープラス1 出産祝金の支給】

委員：私はこの事業の恩恵を受けなかった世代ではありますが、一時金として20万円が支給されると聞いた時、うれしいことではあるが子育ては、その時限りのものではなく何十年も続くということで、やはり継続的な支援としては効果が薄いのではないかと感じています。今回の廃止の方向に意義や異論はありません。

委員：やはり数字の話にはなってくるのですが、1人の子どもができることは地域に対する効果が大変高いわけですが、全体的な数が増えないからやめるというのは、少し違うのではないかと感じる。もらった人はうれしい気持ちがあるだけで、もらうために産んでいるわけではない。そういうものを政策の上に乗せて、3人産めばもらえるのに産む人が少ないから辞めましょうというのは、考え方としておかしいのではないかと。

会長：経済的な負担を軽減することで3人目のハードルを下げようという政策なんだろうと思いますが、3人目4人目の子どもがほしいと思った時に、本当に何が必要なんだろうという所にかえらないといけないんだろうと思います。単純に3人目にインセンティブを与えようという話ではないのだろうと思います。

事務局：子育て施策全般の見直し再構築をしていこうという中で、保育料の無償化や保育士の確保、保育士の処遇改善など優先順位をつけ考えていっているところから廃止ということになっています。結婚年齢がどんどん上がってきており、多子出産が望めないということから結婚を早くしていただくために希望を叶えられるような施策も支援として順位をつけながら進めているところです。

会長：中止でよいとは思いますが、問題は3子目に支給するというのは、結婚・子育てに対する市の全体の政策の中で位置づけられているものでしょうから、単に廃止するというのではなくて、それに代わる政策の組み立て直しを含めて、結婚・子育てへの支援のあり方を考え直していくきっかけになってほしいと思います。

委員：何年か前に子育て支援施策として、商品券を市からお配りしたことがあった。2人目と3人目に差をつけられており、年間3回に分けて配布がされました。好評な事業でしたが、3年の期限ということで事業はなくなりました。その時でも、廃止になったことへの不満を聞きましたので、今回はそれよりも多い20万円ということから、かなりのご意見があったのではないかと思います。子どもを産んだからいくらということではなくて、子どもが育つことに対しての喜びという部分で市からもらえることに対して感動や丹波市でよかったという思いもあり、それが安心感につながってくるので、またそういった事業も復活させてもらってもよいのかなと思います。

委員：地域づくりの活動をしている中で、お料理婚活をしました。せっくなので担当課に連絡をしまして、結婚に関係する又は出産・育児に関する施策やパンフレット等を集めてほしいと依頼しましたが、課が分からないのでと言われました。待つのでと言いまして揃えていただき、料理教室をしたところ、みなさん大変興味を持っておられました。結婚しようと思っている人たちは、結婚の事だけを考えているわけではなくて、結婚後の生活を考えて結婚するため、そこまでの数々の不安をどうクリアしていくかという部分では、担当課ごとの連携や情報をまとめて市民がキャッチする場を提供するといったことが大切であると思います。情報や人のつながりにより、たくさんのシステムを作ったり、行政が全て関わらなくても自動的に市民同士で補っていけるシステムができるんだと感じます。

会長：少子化対策の中で子育て支援施策等をまとめたものは当然ありますよね。

事務局：Tプラスさんが昨年作成された子どもの年齢別での医療等の施策一覧をまとめたものがございます。

会長・委員：周知や共有がされていないということだと思います。

【看護師配置事業】

委員：病児・病後児保育の対応をする看護師の配置は、働く母親にとって大切なことだろうと思いますので、看護師不足が現状にはあり、病院から保育園に就職するというのも大きなハードルがあると思います。もしフルタイムで働けないのであれば、病院に勤務を希望する看護師の資格を持つ人が多いと聞きます。定かではないが認定子ども園ではフルタイムで働くのではなくて、必要になったときに呼んでもらうといった形で雇用していると聞いたことがあるが、現在配置されている看護師はフルタイムで働けていないのでしょうか。

事務局：看護師不足で中々雇用できないといったこともありますが、子ども園の中で短時間勤務のところもありますし、園によって柔軟な対応をしてもらっていると思います。

委員：この話になるとどうしても大人目線での話が多いが、もう少し子ども目線での話をしますと、看護師を配置すると働くお母さんにとっては確かにいいことではありますが、私達としては、看護師を配置することによって保育士の負担が減り、負担が減った分を違うところに力が発揮できる。そうすることで結果、そのことが子どもに返ってくることになるという見方をしている。看護師については、市内の園は全て配置したいと思っている。私のところも2園経営しているが、1園は確保できているが、もう1園は確保ができていない。1年中募集しているが応募がない。理由は費用面で折り合いがつかず諦めてしまっている。また、この事業も継続性のあるものかどうか分からないので採用もしにくい。5年経ったら見直しをしますといったようなことになると、看護師を採用して5年経てばどうなるか分からないというような採用はできない。様々な難しい問題がたくさんあり、採用できていない部分がある。この事業は子どもの保育の向上に役立つものであると思いますので、今後も続けてほしいと思っている。

【丹波市子育てポータルサイト運営】

委員：私自身がTプラス・ファミリーサポートの会員でもあるが、総会にも毎年参加しており、活動内容は存じ上げていますが、ポータルサイトはTプラスに委託されており、メンバーで記事をアップして子育て中の皆さまにご利用いただいています。アクセス数が数字的に減ってきているということですが、私が代表を務めている小児科を守る会では、毎週金曜日にメールマガジンを配信しており、それにポータルサイトのリンクを貼り付けることで若干でもアクセス数が増えるのではないかなと思いましたので、小児科を守る会のメンバーに相談してみようと思っています。

会長：別の形のネットワークでつながりを活用するといったご指摘だったと思います。重要なのはデザインも確かに重要だが新しい必要な情報がきっちり集まるということが重要で、それを様々なネットワークを活用してみんなで情報を集めていけるようにできればアクセ

ス数も伸びていくと思いますので、そのあたりを考えていただければと思います。

委員：自分の子どもが関係する間は、ポータルサイトを見ますが、関係がなくなると見なくなる。子育てピアサポーターで先輩が教えたり、相談に乗ったりすることに大変注目しており、そこが子育ての下支えとなってくる。そういった人たちからの情報も必要ではないかと思います。また、子育ての中でのDVなどのしんどい部分を寄り添った相談ができるような体制が必要で、市の中でそういった計画もたくさんあると思いますので、そこをしっかりとやっていただきたいと思います。

【地域福祉パートナーシップ事業】

委員：シティプロモーション推進事業と重複する部分があるので取りやめるということは、そういった事業の提案があるということですか。

事務局：シティプロモーション推進事業でも公募は既に始まっておりますが、市民の皆さまと一緒に取り組む事業を今後認定していく予定です。地域と連携し地域課題を解決するという中で事業を包括させていただいております。

【子ども・若者育成支援事業】

委員：市民団体でも活動しているところがあり、そういったところとの連携の強化が必要である。この事業は委託事業であり、落札業者が変わればまた違う業者が請け負うことになる。実際に業者に連携を聞くと中々連携まではできていないということでした。実際の子どもや親、地域の意見というものが大切ですので、その辺りは市民力を活用していただければと思います。

【全体】

委員：総合戦略の70事業の内、約20事業が国の交付金事業となっているが、残りは市単独事業なのか。

事務局：この交付金については、地方創生推進交付金のみを抜粋しています。また、それ以外の事業についても、それぞれの事業単位で補助金があるものや市単独のものもあります。

委員：国が要綱を定めたものであると、そこから逸脱できないため、議論をしても行き着くところ、仕方ないといった結果しかない。できるだけ人口が減ってきている中で総合戦略としてやっていく市単独の事業に意見を出していき、決断さえできれば変えられるといった議論の仕方もあるのではないかと思う。国の交付金の事業に対して、外部の意見を聞いたのかといった材料になるのではないかと感じている。

会長：交付金に基づく事業ではあるが、国の言うとおりにやらなければならない事業ではなく、ここでの意見を踏まえて市として修正していけるものが集められていると理解してい

ただければと思う。

委員：総合戦略を作成した際に、子育てや家・仕事、コミュニティなどバラバラの話ではなく全てをひっくるめて、それぞれがオーバーラップするイメージを持っていたが、1つ1つがそれぞれ切り分けられているように見えオーバーラップ具合がよく見えてこない。予算ごとに違うものになっているように感じてしまうが、もっと重なり合うことで数値が上がってくればいいのにとおもいます。

委員：それぞれの事業をそれぞれの担当課が行なっているが、それぞれつながりを持つことでもっと効果的にできるのではないかと私も感じている。それぞれの事業がそれぞれで終わっているようでは、中々効果としては表れにくい。

委員：婚活相談おせっかいマスターを福祉部の福祉計画策定委員会の中で見て、本当にこんなことができるのかと思いましたが、これを継続していただきたいとおもいます。

副会長：丹波市の自治会加入率は74%程度であり、25%程度は加入されていないことになる。篠山市は90%以上が加入をされ活動している。自治会に魅力がないのか、行政的な部署での理解を示されていないのか分からないが、自治会加入率がこのまま横ばいで人口が減少すると今よりもっと厳しい運営を迫られる事になる。また、どの自治会も空き家があり、対応に苦慮されている自治会が多い。アンケートでは、農業等の指導をしてもよいといった市民が結構いた。もっと無関心かと思っていたが、そうではないことがアンケートから読み取ることができた。市に移住する方に対しての支援は充実しているが、受け入れる側の支援がもう少しあれば協力的に進み自治会への加入も進むのではないかとおもう。

委員：人とふるさとをつなぐものは、歴史・文化・風土・伝統あるが、一番は胃袋であるといったことをロシアの作家の本で見たことがある。人と家をつなぐものは、お袋の味であるように、人とふるさとをつなぐものは、ふるさとの味ではないかとおもう。ふるさとを離れてもふるさとを思い出す大きな要因になる。そういった意味で、子ども達の愛郷心を育てるためにも、ふるさとの味・丹波の味を胃袋に植えつけることも必要で、そういった環境があってもよいのではないかとおもう。丹波三宝を対外的に誘客のために使うとともに、子ども達にいつまでも丹波を思い続けさせる材料として使っていくのも良いのではないかなとおもいます。

委員：シティプロモーションの委員会にも出席しているが、同じようなことが重なりすぎていて、この事業とこの事業が一緒になったほうがよいのではないかとおもうことが多々ある。主導権はどちらが握って、進めていくのか分からない部分もある。公募事業で廃校利用の事業を採択されているが、この推進委員会とどう関わっていくのかわからない。どちらも人口増加で住みやすいまちづくりを目指しているが、同じようなことを別々にやっているよう

に感じる。この総合戦略の目標値自体が妥当なのかわからない。費用対効果や経済効果をどれだけ生んでいるのかまで検証しないと、つきつめると全ての目標値をクリアすれば人口は増加するのかということになる。目標値がクリア出来なかった時、出来ませんでしたで終わってもよいものなのか。もっと突き詰める必要があると思う。

委員：基本目標の1と3が達成状況が低い状況にある。未達成の数に比べ、今後の方向性で、取組みを改善するが少なく、本当にこれで目標値を達成していけるのかなと思います。

委員：福知山市の出生率が非常に高いが、なぜそうなのかといったもう一步突っ込んだ分析はあるのでしょうか。

事務局：福知山市の人口ビジョンでは、工業団地の従業員数の増減がでており、担当者に確認をとるとそれだけではなく様々な要因が絡み合って高い数値が出ている言われていました。他市からの転入者が多いのもひとつですし、市内の就労も多いということもあり、それぞれが複合的に絡み合った結果がこの数値につながっていると思われます。

委員：良い事例が隣にあるので、もう少し分析しヒントが得られればよいと思います。

会長：京都府の少子化対策の委員会でも、福知山市の高い数値が取り上げられ、工業団地もひとつの要因ではあるが、なぜなのかはよく分からないというのが実際のところでした。

全体をとおして、委員の皆さまの指摘で気になった点は、評価シートの課題と改善点、今後の方向性で、目標値が達成されていない原因というのをしっかり考える必要があるのではないか。なぜ達成できないのか考えた上でないと改善点と方向性は本当はでないと思う。担当課で達成できていないのは何故なのかを真摯に考えていただきたいと思います。また、今後の方向性でAの引き続き現状の取組みを推進するとBの全般的には推進し取組の一部を改善するの選択が事業によって基準がずれている印象を受けました。他には、進捗管理シートは事業ごとにKPIの達成で評価をしなければならないが、全体から見て、この事業はどこに位置づけられているのか、どういう意味を持っているのかということもあわせて考え、事業の重なりも意識しながら取り組んでいただきたい。

10 次回推進委員会開催日程

第2回丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日 時：平成30年2月予定

場 所：未定

11 閉会